

2024年:辰年 < 美術・博物館の初詣 >

山本 雅晴

2024年は元日早々から“能登地震”という予期せぬ災害からの幕開けとなった。北陸出身の小生は輪島や七尾に行ったこともあり身近に感じ心が痛む。今年の干支は辰で、小生は7周年目となる。

東京国立博物館ではいつから始まったかは知らないが、新年から約1ヶ月間干支にまつわる美術品を展示し「博物館に初もうで」と称してPRしている。コロナ禍の2021~2022はなかったが、ここ十数年毎回訪れている。今年は昨秋から新館を開館した「三の丸尚蔵館」の入館予約を取り、1月5日に訪れた。

「三の丸尚蔵館」は新館(半分完成で2年後に全館完成予定)の運営は宮内庁から文化庁に変わった。今までは予約なしで無料だったが、日時指定予約制となり一般の人は入場料が1000円となった。幸いなことに70才以上の人は、予約すれば無料で入場できます。また、撮影禁止表示以外の展示品の撮影が可能になった。

今回初詣で訪れた二つの博物館・美術館の鑑賞の概要をまとめて報告します。

I、東京国立博物館：特集・博物館に初もうで「謹賀辰年～年の初めの龍づくし～」と常設展を鑑賞した。



3. 伝陳容筆 五龍図巻・重要文化財 中国・南宋 13世紀
日本の「龍の図の原型」といわれている。ボストン美術館の「九龍図巻」、旧藤田美術館の「六龍図巻」も有名。

4. 十二神将立像(辰神) 重要文化財
京都・浄瑠璃寺伝来 →

5. 国宝・松林図屏風：長谷川等伯
毎年正月の2週間展示されている。
等伯は今の石川県・七尾市出身



II、三の丸尚蔵館：開館記念展「皇室のみやび～受け継ぐ美～」第2期 “近代皇室を彩る技と美”

6. 横山大観「日出国日本」1940



7. 海野勝珉「蘭陵王置物」重要文化財
1890



快晴で、1月5日の正午頃だったが、美術館の鑑賞者はかなり多かった。

8. 三の丸尚蔵館の建物 →

